

I 研究主題及び副題

ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成 ～ 授業実践を中心としたふるさと学習の充実を目指して ～

II 主題設定の理由

高鍋町には、石井十次や高鍋城（舞鶴城）跡、高鍋湿原など、郷土の偉人や貴重な自然・文化財等がたくさん存在する。しかし、児童生徒がそれらを学ぶ機会が少なく、ふるさとへの愛着が薄いという実態を受け、平成19年度からふるさと高鍋町に関わる地域素材を取り扱った「ふるさと学習」の研究に取り組んできた。1年目は「地域素材の収集と整理、教材化の工夫」、2年目は「年間指導計画及び単元指導計画の作成、学習指導過程及び評価の工夫」、そして昨年度は「各学校での実践による単元指導計画及び学習指導過程のさらなる工夫、地域素材の見直し」を中心に研究を行ってきた。それにより各学校におけるふるさと学習が年間計画に従って一斉に進められるようになり、ふるさと学習を進めるための基盤が整備されてきた。また、家庭や地域に向けて、町内4小・中学校がふるさと学習を進めていることを広くアピールすることができた等の成果を得ることができた。しかし、ふるさと学習を進めていく上でそれぞれの学年での明確な目標設定ができていないこと、学校の実態に応じた年間計画のさらなる見直しや修正作業等の必要性があること、児童生徒の発信を含めた表現力を向上させていくこと等の課題も出てきた。その上でこれまでの本研究の成果を4小・中学校に浸透させ、ふるさと学習の充実を図っていく必要がある。

そこで、本年度は、昨年度までの研究の課題も取り入れ、授業研究を本研究の中心に置き、研究授業実践を4小・中学校で行うことで、これまでの研究の成果を各学校に浸透させ、それに関わる具体的な取組を行うことを通して、ふるさとを愛し、誇りをもつ児童生徒を育てるとともに、ふるさととの関わりの中で自己の在り方や生き方を見つけさせることをねらいとして本主題及び副題を設定した。

III 研究の目標

小・中学校において、高鍋町の地域素材を取り扱った具体的な授業の充実や家庭・地域社会との連携を図り、様々な体験の場を設定することにより、ふるさとへの興味・関心をさらに高め、ふるさとへの愛と誇りをもった児童生徒を育成する。

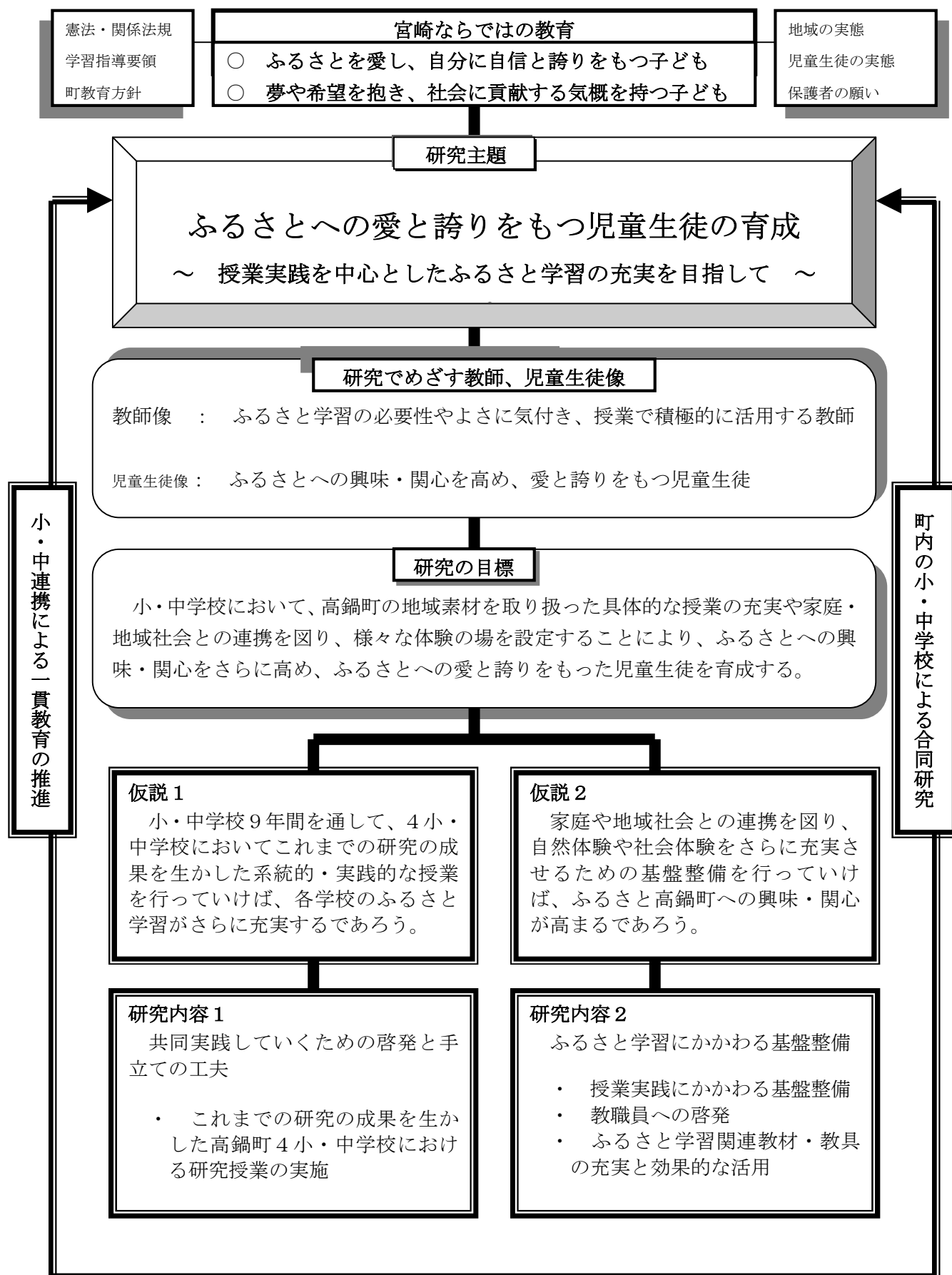
IV 研究仮説

- 1 小・中学校9年間を通して、4小・中学校においてこれまでの研究の成果を生かした系統的・実践的な授業を行っていけば、各学校のふるさと学習がさらに充実するであろう。
- 2 家庭や地域社会との連携を図り、自然体験や社会体験をさらに充実させるための基盤整備を行っていけば、ふるさと高鍋町への興味・関心が高まるであろう。

V 研究内容

- 1 共同実践していくための啓発と手立ての工夫
これまでの研究の成果を生かした高鍋町4小・中学校における研究授業の実施
- 2 ふるさと学習にかかわる基盤整備
 - ・ 授業実践にかかわる基盤整備
 - ・ 教職員への啓発
 - ・ ふるさと学習関連教材・教具の充実と効果的な活用

VI 全体構想



Ⅶ 研究の実践

1 共同実践していくための啓発と手立ての工夫 ～ 授業実践を中心として ～

研究授業実践を町内4小・中学校で行うことで、これまでの研究の成果を各学校に浸透させ、町内の先生方がより授業実践しやすくしていくことをねらいとした。

(1) 小学校における実践1 高鍋西小学校3年生

ア 主題名 「大好き 高鍋の自然」

イ 本時の目標

- 高鍋町の自然について各グループで調べ、まとめたことを発表会で発表することができる。

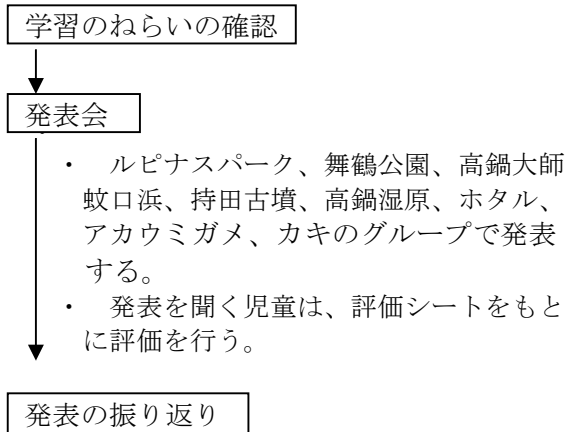


グループごとの発表の様子

ウ 支援の視点

- 事前アンケートの結果より、高鍋町の自然について「あまり知らない」「ほとんど知らない」という子どもが半数近くいたため、グループに分かれて調べる活動を行い、発表会形式の学習を取り入れる。
- 中間発表会を行い、話し合いを通して発表を見直しよりよい発表会ができるようにする。
- 発表会において児童による相互評価を行うことで、意識して発表をしたり、関心をもって友達の発表を見たりすることができるようにする。
- デジタルコンテンツや地域素材パネルの活用を図る。
 - ・ 導入段階…デジタルコンテンツを活用し、関心を高める。
 - ・ 調べる活動…ふるさとマップ、高鍋湿原動植物図鑑などを活用する。
 - ・ 発表会…地域素材パネルを活用する。

エ 授業の大まかな流れと指導過程



オ 考察

- 高鍋町の自然について、グループごとに調べ、調べたことを発表会で発表する活動を取り入れたことで、意欲的に学習に取り組むことができた。
- 評価シートを用いて、相互評価を行わせることで、聞き手を意識しながら発表したり、関心をもって友達の発表を見たりすることができた。
- デジタルコンテンツや地域素材パネルを活用することで、子どもの興味・関心を高め、理解を深めることができた。
- 発表会形式の学習を充実させるために、発表会の形態や場と時間の工夫が必要である。

6 本時の目標

- 高鍋町の自然について各グループで調べ、まとめたことを発表会で発表することができる。

7 指導過程

段階	主な活動	○ 教師の支援 ★ 評価	準備物
気 付 く	1 本時の学習のねらいについて知る。 調べてまとめたことを発表会で発表しよう。	○ 本時は、自分たちで調べてまとめたことを発表したり、友達の発表を見たりすることを意識させる。 ○ 発表の中で、高鍋町の自然についてよさをPRしたり、自慢できるようにする。	
5 分			
考 え る	2 発表会を行う。 〔前半発表〕 ルピナスパーク・舞鶴公園 高鍋大師・蚊口浜・持田古墳・高鍋湿原 〔後半発表〕 ホテル・アカウミガメ・かき	○ 各グループの発表の時間を決め、発表会の流れを知らせる。 ○ 発表をするグループは、声の大きさや速さなどに気をつけた発表ができるように促す。 ○ 発表を聞く児童は、評価シートをもとに、各グループの発表を評価させる。 ○ 各グループの発表のよかったところや工夫したところを称賛する。 ★ 友達と協力して、分かりやすい発表をすることができるか。 (観察) ★ 友達の発表をしっかりと聞き、評価することができるか。 (観察)	発表資料 評価シート
2 5 分			
解 決 す る	3 自分たちや友達の発表を振り返る。	○ 各グループの発表を振り返り、よかったところを評価したり、もっと知りたいことを考えることができるようにする。 ★ 発表の評価をしたり、もっと知りたいことを考えることができるか。 (観察・評価シート)	評価シート
1 0 分			
生 か す	4 本時の学習内容について振り返る。	○ 本時の発表会を次時の学習に生かすことができるようにする。	
5 分			

(2) 小学校における実践2 高鍋東小学校5年生

ア 主題名 「知っちゃる！高鍋町！」 ～高鍋町の特色ある産業について調べよう～

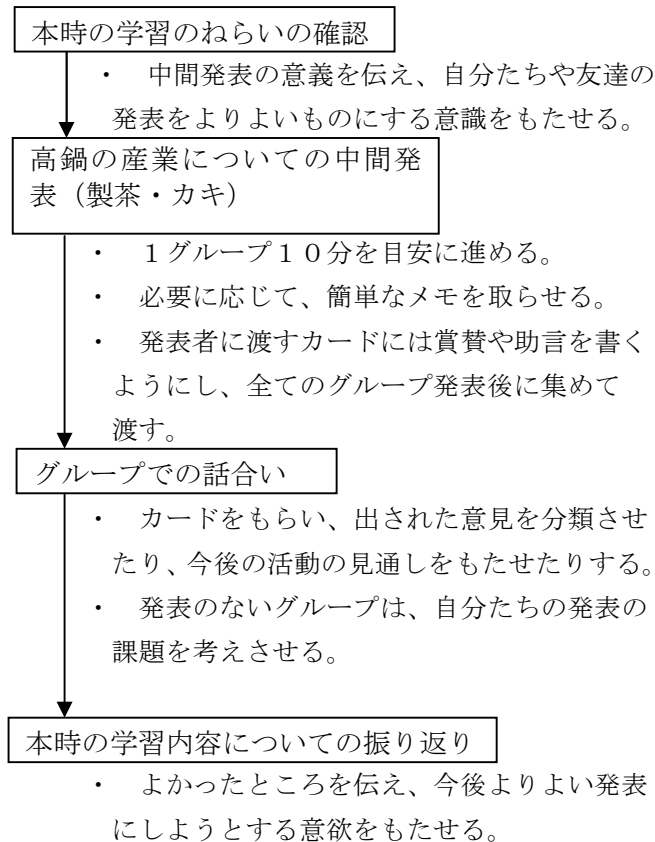
イ 本時の目標

- 高鍋町の特色ある産業についての中間発表を通して、自分のグループの発表を見直したり生かしたりすることができる。

ウ 支援の視点

- よりよい発表になるための段階とするために、いろいろな助言を聞くことができるように学習形態を一斉に進めることにする。
- 話合いの時間を確保するため、中間発表を2回に分ける。
- 聞き手にカードを配付し、発表者に渡すようにすることで、意欲的に聞くことができるようにする。

エ 授業の大まかな流れと指導過程



6 学習過程			
時	学習内容及び学習活動	○教師の支援 ★評価	準備物
5分	1 本時の学習のねらいについて知る。 中間発表会で、自分たちの発表を見直そう。	○ 中間発表の意義を伝え、自分たちや友達の発表をよりよいものにする意識をもたせる。 ○ 調べた内容と、発表の仕方について見ること伝える。 ○ 助言の仕方について確認する。	
20分	2 高鍋町の産業についての中間発表を行う。 ・ 製茶グループ ・ カキグループ	○ 1グループ10分（発表・移動7分、書く時間3分）を目安に進める。 ○ カードには、記号で評価する欄と記述で具体的に評価する欄を設ける。 ○ 必要に応じて、簡単なメモを取りながら発表を聞くようにさせる。 ○ カードには、賞賛や助言を書きようにし、全てのグループの発表後に集めて渡す。 ○ 聞くグループは、発表者と自分たちを比べながら聞き、よりよい発表の視点となるように意識させる。 ★ 分かりやすい発表をしているか。（観察） ★ 友達の発表をしっかりと聞き、カードに自分の意見を書くことができるか。（観察、カード）	発表資料 メモ用紙 カード
17分	3 カードをもとに、グループ内で意見をまとめる。	○ カードをもらい、グループでもらった意見を分類したり、今後の改善の見通しをもたせたりする。 ○ 今回発表していないグループは、自分たちの発表のときにどのような点を意識するかを考えさせる。 ○ グループをまわり、指導をしていく。 ★ 友達と協力して、自分たちの発表を見直すことができるか。（観察、ワークシート）	ワークシート
3分	4 本時の学習内容について振り返る。	○ 中間発表のよかったところを伝え、今後よりよい発表にしようとする意欲をもたせる。	

オ 考察

- 学習形態を一斉にしたことにより、自分たちのグループ以外の全員からカードをもらうことができ、活発に話合いをすることができた。
- 2グループに絞ることで、話合いや書くことを考える時間を確保できた。
- カードを発表者に渡すことを伝えていたので、カードの項目を意識して、発表のよさをみつけながら聞くことができた。
- 書いたりグループで話し合ったりしたので、カードに書く前や本時のまとめの後など、全員で意見交換をしたり、話し合ったりする場を設ける必要があった。



グループでの話合いの様子

(3) 中学校における実践 1 高鍋西中学校 1 年生

ア 主題名 「郷土を見つめよう」

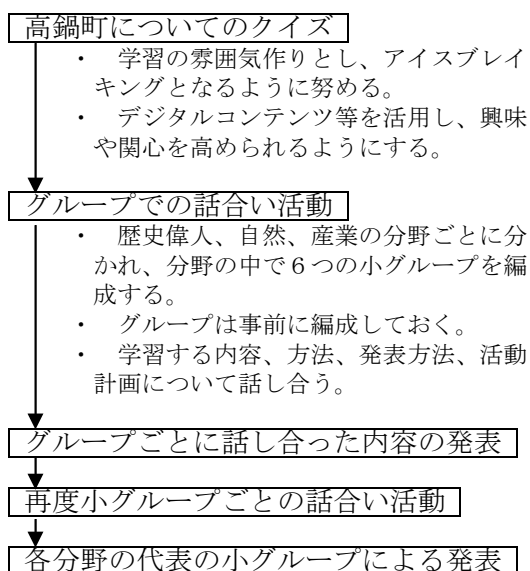
イ 本時の目標

- ふるさと高鍋町の歴史や偉人、自然や産業について知り、今後の調べ活動に意欲をもつことができる。
- 意欲的にグループ活動に参加し、これからの学習の見通しをもつことができる。

ウ 支援の視点

- 本校の生徒会活動の取組（リーダーシップ・メンバーシップ）を生かし、リーダーを中心とした話し合い活動となるようにする。
- 事前アンケート結果により、ふるさと学習に対して関心をもっている生徒が多いという実態であるため、生徒が互いに意見を交換し合っていく流れを取り入れる。
- 事前指導においてリーダーに以下の視点で指導を行う。
 - ・ 本時の話し合い活動の流れを確認する。
 - ・ メンバーのアンケート回答を事前に伝え、班員の考えを理解させることで、見通しをもって話し合い活動に臨めるようにする。
 - ・ リーダーとしての心構えをもたせ、積極的な行動を促す。
 - ・ リーダーに立候補したことを賞賛し、活動への意欲をもたせる。
- デジタルコンテンツや地域素材パネルを活用することで、本時の学習への興味や関心を高める。
- 各担当の職員で共通の支援を行うために、事前の打合せを十分に行う。また、支援が生徒の学習意欲の喚起へとつながるよう指導の共通理解を図る。

エ 授業の大まかな流れと指導過程



時間	主な学習活動	○教師の支援 ★評価	準備物
10分	1 高鍋町についてのクイズを行う。 ① 高鍋町のパネルの活用 ② デジタルコンテンツの活用	○ 楽しい雰囲気の中で学習できる様に配慮する。 ○ 積極的な教材を提供することで、更に興味・関心を高められるようにする。	プロジェクト カード DVD パソコン
30分	2 グループで話し合いをする。 ・ グループに分かれて次の方法で学習を進める。 ① 学習する内容の決定 ② 学習する方法の決定 ③ 発表の方法の決定 ④ 活動の計画の作成 3 グループごとに学習内容を発表する。 ① 6つのグループ（歴史・偉人、自然、産業）の分野ごと発表を行う。 ② 他のグループの長さをメモする。 4 時間的に余裕があれば、グループで再度話し合いをする。	○ 事前にグループワークを示すことで、スムーズな活動の支援とする。 ○ 話し合いが積極的に行われるように、班を回り活動を支援する。 ★ 意欲的に活動に参加しているか。 ○ グループで考えたことを発表する場を設定し、調べ方の方法や調べた内容についての視点を広げられるようにする。 ★ これからの学習への見通しをもつことができたか。 ○ 話し合いがより活発に行われるように、新しい視点を与え、より深めることができるように活動を促す。	ワークシート 発表記録
7分	5 学習内容を発表する。 ① 全体で活動の内容を発表する。	○ 各分野（歴史・偉人、産業、自然）のグループの代表が学習内容を発表し、称賛する場を設定する。	
3分	6 本時のまとめをする。	○ 次時の活動へつなげることができるよう、まとめを行う。	

オ 考察

- 事前にリーダーへの指導を行ったことで、リーダーは活動の見通しをもつことができ、当日の話し合い活動をスムーズに行うことができた。
- 関心のある分野についてのアンケート調査結果をもとにグループ編成を行い、活発な話し合い活動への支援とすることができた。
- 学級担任を中心として学年職員全員で指導にあたる際に、事前に評価の観点を共通理解しておくことで、指導に生かすことができた。
- 今後も活動への意欲を継続させていくために、支援を続けていく必要がある。
- 学年一斉の指導が多くなるため、授業前に常に活動のねらいや目標の共通理解を図り、同じ視点での指導ができるような指導体制づくりをする必要がある。



生徒がリーダーを中心に、グループで課題づくりをしている様子

(4) 中学校における実践2 高鍋東中学校1年生

ア 主題名 「蚊口の浜」

イ 本時の目標

- 高鍋町や蚊口の浜のゴミの現状を知ることができる。
- 蚊口の浜美化活動に取り組む意欲をもつことができる。

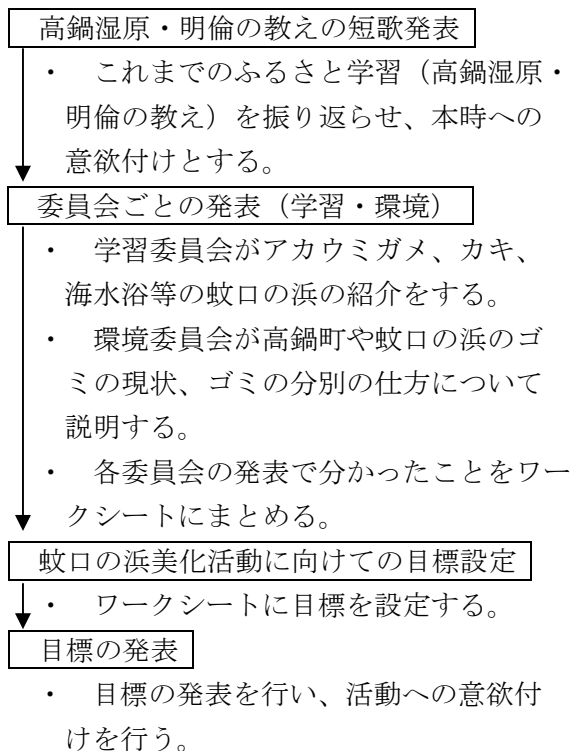
ウ 支援の視点

- これまでのふるさと学習で作成した体験活動の短歌を
発表することで、ふるさと学習を想起させ、本時への意欲付けとする。
- 「蚊口の浜美化活動」の事前学習として委員会ごとの活動を充実させる。
 - ・ 学年委員会が司会進行、学習委員会が蚊口の浜についての紹介、環境委員会が高鍋町・蚊口の浜のゴミの現状やゴミの分別についての説明し、美化活動への意欲付けを行う。
- 「蚊口の浜美化活動」への目標を設定して心構えをもたせ、活動への意欲を高める。



生徒自身で進めた授業の様子

エ 授業の大まかな流れと指導過程



5 指導過程

過程	学習内容及び学習活動	○ 指導上の留意点 ★ 評価	資料・準備
導入	1 これまでのふるさと学習を振り返る。 ・ 学級の代表が短歌を発表し、ふるさと学習を振り返る。	○ これまで総合的な学習の時間に作成した短歌を使い、振り返る。	短歌
	2 本時の学習内容を知る。 蚊口の浜美化活動の事前学習をしよう。		
展開	3 蚊口の浜についての発表を開き、ワークシートにまとめる。 ・ 学習委員会～ウミガメ、カキ等について	○ 学年委員会がスムーズに進行できるように支援を行う。 ○ 発表を真剣に聞く雰囲気をつくるように学年委員会を指導しておく。	発表原稿
	4 美化活動についての発表を開き、ワークシートにまとめる。 ・ 環境委員会～高鍋町・蚊口の浜のゴミの現状、ゴミの分別について	○ まとめる作業に際して個別に支援が必要な生徒に対しては適宜支援を行う。	パソコン プロジェクタ スクリーン
	5 蚊口の浜美化活動にむけて目標を立て、発表を行う。	★ ワークシートに記入しているか。 ★ 意欲的に活動を行っているか。	ワークシート
まとめ	6 本時のまとめを行い、学習を振り返る。	○ 当日の諸注意も行っておく。	

オ 考察

- 事前に各委員会への指導を行ったことで、調べ学習の発表や進行など生徒を中心にスムーズに行うことができ、委員会ごとの活動が充実できた。
- ワークシートに自分の考えやまとめを書かせることで、学習内容を深めることができた。
- 総合的な学習の時間では、学年一斉での指導が多くなるので、ねらいや目標、単元の流れ等、学年全職員の共通理解を図る必要がある。
- 発表形式における授業では、教師が手段や目的をしっかりともち、学習内容を深めさせる必要がある。

2 ふるさと学習における基盤整備

本年度は授業研究を研究の中心に据え、その授業を支える基盤を整備するために3つのプロジェクトを作り、町内の先生方が授業実践をしやすくする内容を考えた。

- 授業実践プロジェクト・・・授業実践のための目標設定、指導案、参考資料集等の作成。研究授業におけるアンケートの実施
- 啓発・広報プロジェクト・・・町内の教職員へのふるさと学習の広報・啓発、デジタルコンテンツ等の活用方法の提案
- 教材・教具プロジェクト・・・地域素材パネル等の作成と効果的な活用方法の提案

(1) 授業実践プロジェクト

授業実践プロジェクトでは、3つの活動を行った。1つ目に、「高鍋町における総合的な学習の時間の目標・評価の研究」である。授業実践をするためには、授業の目標や評価基準を明確にしておく必要がある。そのため、「くしま学」や「さいと学」を参考にし、高鍋町独自の各学年の目標を作成した。また、各学年の目標作成に伴い、高鍋町独自の評価の基準も作成し、授業実践の際に活用した。

目標の構造一覧表

	小学3年	小学4年
テーマ	高鍋の <u>自然</u> を知る、学ぶ	高鍋の <u>偉人</u> を知る、学ぶ
高鍋や生き方に関する 関心・意欲・態度	○ 高鍋のことに興味・関心をもつ。	○ 高鍋のよさを受け入れようとする態度をもつ。
高鍋や生き方に対する 思考・判断	○ 直接体験を通して高鍋と自分の かかわりに気づく。	○ 調べ活動を通して高鍋を支 える人々の思いや願いに気づ く。
高鍋や生き方に関する 情報活用の技能・表現	○ 直接体験を通して諸感覚を使 い、情報を収集する。 ○ 感じたことや気づいたことを相 手にわかるように表現する。	○ 体験を通して学んだことと 調べたことを整理する。 ○ 調べた結果を適した手段や 方法を選択して表現する。
高鍋や生き方についての 知識・理解	○ 高鍋の自然・環境・歴史・伝統・ 文化を知る。	○ 高鍋の自然・環境・歴史・ 伝統・文化について理解する。 ○ いろいろな職業や仕事があ ることを知る。
取り上げる地域素材と 主な学習内容	高鍋湿原、アカウミガメ、 小丸川、大楠	秋月種茂、石井十次

小学3年から中学3年まで各学年に応じた目標を設定した【4観点】

各学年のテーマや取り上げる地域素材を明記した。

2つ目に、「総合的な学習の時間（ふるさと学習）の指導案」の検討を行った。授業実践という研究を町内4小・中学校で、系統的に行っていくためには、小・中学校共通した指導案の形式を整備することが効果的であると考え、指導案の形式の検討を行った。指導案形式の検討を通して、授業をするにあたっての流れがスムーズになった。また、授業事前研究や事後研究の際に、活発な意見交換が行われた。

3つ目に、「授業実践参考資料集」の作成を行った。授業実践参考資料集（CD-R）には、以下の内容が収録されている。

- ・ 総合的な学習の時間の指導案形式
- ・ 授業実践者の指導案
- ・ 高鍋町における総合的な学習の時間（ふるさと学習）の目標の構造一覧表
- ・ 高鍋町における総合的な学習の時間（ふるさと学習）の評価の構造一覧表
- ・ 授業実践の際に活用したワークシート

次年度以降の授業実践の際に、授業実践者が指導しやすいように配慮して、高鍋町4小・中学校の各学年に配付した。

(2) 啓発・広報プロジェクト

ア 啓発活動

本研究所では、昨年度デジタルコンテンツや地域素材パネルを作成した。今年度さらに授業での活用を充実させるために、具体的な活用方法を町内の教職員に紹介した。

まず夏季休業中の町内教職員研修を利用して、全職員にデジタルコンテンツの内容と活用方法についての研修を行った。活用方法に関しては、導入場面での活用方法やまとめの段階での活用方法など具体的に研修を行った。

また、各学年段階でのデジタルコンテンツや地域素材パネルの活用方法について、ふるさと学習通信で以下のように紹介した。



夏季休業中の高鍋町内教職員研修でデジタルコンテンツの紹介をしている様子

小学校6年生での活用方法

小学校6年生では、高鍋の歴史について学習します。デジタルコンテンツには、高鍋大師・黒水家住宅・持田古墳群などの画像を収録しています。また、画像だけでなく動画も収録していますので、見学前や見学後に活用していただくと効果的です。



【高鍋大師】

イ 広報活動

ふるさと学習についての本研究所の研究内容を広く町内の教職員に紹介し、各学校でのふるさと学習への取組を今後よりいっそう推進していくための活動として、広報紙「ふるさと学習通信」を発行した。

「ふるさと学習通信」では、以下の内容を取り扱った。

ふるさと学習通信

発行：高鍋町教育研究所
年度：22年11月 発行

◇高鍋町教育研究所の今年度研究テーマ◇
ふるさとへの愛と誇りをもつ児童生徒の育成
～ 歴史実感を育むふるさと学習の充実を目指して ～

第2回研究授業 ～高鍋東小学校5年生～

こんにちは、高鍋町教育研究所です。今年度、本教育研究所では上にある研究テーマに基づき、総合的な学習の時間での「ふるさと学習」の歴史研究を行っています。10月29日（水）に、その第2回目の研究授業が高鍋東小学校で行われました。高鍋東小学校の5年生が総合的な学習の時間の歴史を勉強していただきました。

歴史は高鍋町の歴史についての学習を通して、これまで調べてきた内容を授業に活かす学習機会です。2つのグループ「お祭りグループ」「お祭りグループ」の元気いっぱい発表が行われ、歴史授業に合わせた研修授業では、先生に聞いてもらった意見を聞きながら、自分たちの発表を見直し、自分なりの発表を行いました。

高鍋町を思い出して！
高鍋町を思い出して！

知ってる？ 高鍋町 一高鍋町の5年生が調べた内容からのお話です～

【お茶について】
高鍋町の代表的な産物、「お茶づくり」。高鍋町は全国5位のお茶の生産地です。しかもそのお茶は高鍋町が産出されたお茶です。お茶の産地は10種類以上あり、高鍋では「お茶をた」という言葉が多いそうです。高鍋町産のお茶は、高鍋町産のお茶を産出しています。

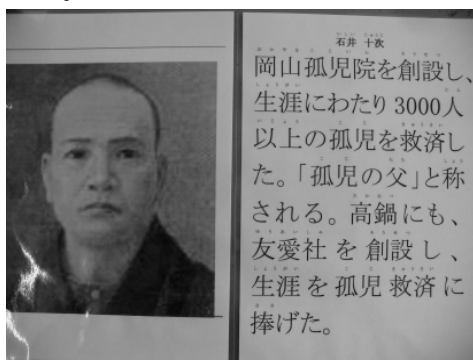
- ・ 本研究所の昨年度までの研究内容
- ・ 本年度の研究テーマ
- ・ 各学校で実施された総合的な学習の時間でのふるさと学習の研究授業の報告
- ・ 本研究所で作成したデジタルコンテンツ、地域素材パネルの活用方法の紹介
- ・ 研究実践で児童生徒が行った調べ学習の内容の紹介

本年度の研究成果について「ふるさと学習通信」は月に1回のペースで発行し、各学校で全職員に配付した。通信の紙面には、本研究所の本年度研究テーマを常時掲載し、ふるさと学習を通して期待する児童生徒の姿を定期的に紹介することにより、ふるさと学習への啓発活動となることをねらいとした。

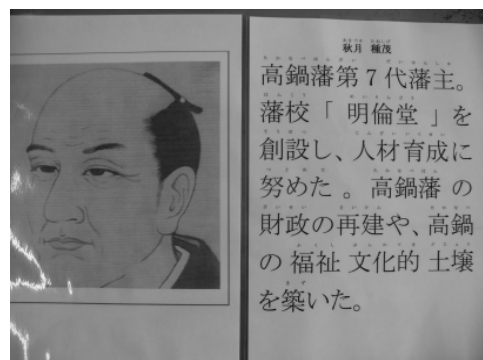
(3) 教材・教具プロジェクト

ア 地域素材パネルの内容充実

- ・ 各学校でいつでも利用できるように、高鍋町 4 小・中学校に一つずつ地域素材パネル（自然・産業・歴史）を作成した。
- ・ 新たに高鍋町の偉人（石井十次・秋月種茂・上杉鷹山・柿原政一郎）のパネルを作成した。



【石井十次のパネル】



【秋月種茂のパネル】

イ 研究所で作成した教材・教具の授業への活用についてのアンケート

高鍋町 4 小・中学校の教職員にデジタルコンテンツや地域素材パネルの活用について、以下のようなアンケートを行った。

- 今年度、総合的な学習の時間（ふるさと学習）でデジタルコンテンツや地域素材パネルを使用されましたか。
- デジタルコンテンツや地域素材パネルを使用された方は、どの単元でどのように使用されましたか。
- デジタルコンテンツや地域素材パネルに関して、ご意見・ご要望があればお聞かせください。

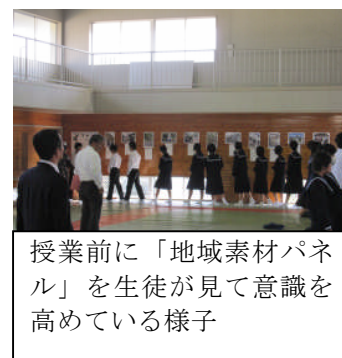
アンケートの結果より、各学校で、単元の導入や調べ学習、体験活動後の学習発表会等で活用されていることがわかった。デジタルコンテンツについては、「高鍋町の歴史に関して、もっと詳しいものが欲しい」、「動画を充実してほしい」、「各教室にテレビがないので学級単位で使用するのが難しい」

という意見があった。今後、デジタルコンテンツの内容の充実や効果的な活用方法についての研究を深めていく必要がある。

地域素材パネルについては、「施設・偉人についてのパネルが欲しい」、「ふりがながつくと分かりやすい」という意見があった。今年度、偉人のパネルを作成し、そのパネルの説明文にはふりがなをつけたので、これからのふるさと学習での活用が期待される。



デジタルコンテンツを使って、自分の課題づくりをしている様子



授業前に「地域素材パネル」を生徒が見て意識を高めている様子



発表の中で「地域素材パネル」を活用している様子

Ⅷ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 町内4小・中学校すべてで研究授業を行ったことで、町内の教職員へのふるさと学習に対する啓発を図ることができた。また、小・中学校それぞれの授業を見ることができたことで、発達段階に応じた児童生徒の実態や授業の行う上での視点等の違いがわかり、小・中連携の意味でも意義があった。
- 他の学校の授業を参観することで、研究所員自身の研究が深まりその成果や課題を生かして事前研究・事後研究がより活発になり、研究を深めることができた。
- 授業実践のための授業の目標や評価基準、指導案形式が整い、授業実践における視点がより明確になった。また、授業実践参考資料集の作成により、次年度以降の授業実践に生かせるようになった。
- デジタルコンテンツや地域素材パネルの具体的な活用方法の研修を町内の教職員に行ったことで、地域素材への理解を深めることができた。
- ふるさと学習における研究授業の様子や各学校の取組を「ふるさと学習通信」で紹介していたことで、各学校のふるさと学習に対する意識が深まってきた。
- 地域素材パネルを作成したことにより、授業実践に役立つ教材・教具の充実を図ることができた。また、授業への活用方法等も明らかにしていったことでより実践で活用しやすくなった。

2 今後の課題

- 小・中学校の連携としてのふるさと学習の内容の高め方を考えていく必要がある。
- 今年度は、施設等への交通手段の確保の問題も含めて、地域との連携が不十分であった。
- 実際に授業実践していく上で、教職員からあがった要望に応じていきながら、さらなる基盤整備をしていく必要がある。
- デジタルコンテンツ・地域素材パネルを年間指導計画に位置づけ、効果的な活用をしていく必要がある。
- 本年度は教職員のみに向けての広報活動であったので、今後保護者や地域への発信をしていく必要がある。
- さらに授業実践に必要な教材・教具の内容の充実と効果的な活用方法について研究を深めていく必要がある。

【引用・参考文献】

- | | |
|-------------------------------|----------|
| ・ 宮崎の教育創造プラン『宮崎ならではの教育』 | 宮崎県教育委員会 |
| ・ 高鍋町歴史総合資料館要覧 他関係資料 | 高鍋町 |
| ・ 高鍋町 暮らしの便利帳 | 高鍋町 |
| ・ くしま学 | 串間市教育研究所 |
| ・ さいと学 | 西都市教育研究所 |
| ・ 平成19年度、平成20年度、平成21年度教育研究報告書 | 高鍋町教育研究所 |

【研究同人】

所長	萱嶋 稔				
研究指導員	武田 廣規				
研究員	黒木 雄治	下畑 初美（高鍋東小）	花車 秀樹	高橋 京子（高鍋西小）	
	瀬戸口和昭	長崎 敏彦（高鍋東中）	鳥居 慎治	矢野 秀平（高鍋西中）	